

SGEC プロジェクトCoC全体認証施設

美深町立仁宇布小中学校

美深育ちの木々に包まれた 温もりある学び舎。

いつも身近に自然を感じながら

子供たちがのびのびと学ぶ木の教室で豊かな心を育みます。

新しく生まれ変わった仁宇布小中学校の新校舎は、美しい自然と共生するマチ美深町を象徴する「木に包まれた校舎」となっています。

開放感あふれる共有ホールや各教室の天井には、赤味がかったカラマツ集成材の梁が連なり、壁には淡い白茶色のトドマツの羽目板が施され、それぞれ色味の違う木肌でおしゃれな雰囲気演出しています。

特に、壁に施されたトドマツの羽目板は、森林体験学習で子供たちが木材の伐り出し見学をした際に作業現場で見た原木が使われており、「子供たちの思い出を目に見える場所に」と、愛着心や親近感が深まるような配慮がなされ、プロジェクトを通じて関わった様々な人の想いを結集した温もりあふれる学び舎として完成しました。

美深の森と学校に愛着を！

森林体験学習



子供たちに森林や木材に関心を持ってもらう貴重な機会として、林業関係団体の協力により、学校近くの認証林で新校舎に使う木材の伐り出し作業を見学しました。



町産材の学び舎は

森林と共に歩んできたマチの象徴。



美深町長

山口 信夫

美深町は、南北に貫流する「天塩川」を中心に拓かれた自然豊かな広大な町土のうち、森林が約85%「57,700ha」を占め、林業を基幹産業として発展してきました。

また、昭和19年には仁宇布森林軌道が運行し林産業の振興が加速しましたが、昭和40年代に1万人以上いた人口も現在は4千人余となり、人口減少とともに林産業も衰退してきました。

この美深町立仁宇布小中学校建設にあたっては「林業振興」や「森林と共に栄えた地」に町産材を多く使用した木造建築とすることとしました。加えて、国内的には大規模木造建築物では初の「SGECプロジェクトCoC認証(全体)」の取得を目指し、北海道及び上川森林認証協議会並びに地域林業関係団体などの全面的な支援をいただき事業を推進しました。

地域から親しまれる木造校舎として
子供たちの豊かな心を育みたい。



美深町教育委員会
教育長

草野 孝治

仁宇布は、アイヌ語で「ニウプ」森林又は木の多い川の意味とされていますが、校舎整備に使われた町産材でもある「トドマツの森」という解釈もあります。

森林に囲まれた自然環境のもと、児童生徒は町有林での「植樹祭」への参加や道有林の樹木伐採現場の見学など、特色ある木育体験学習に参加し、森林資源の大切さを学んでいます。

仁宇布地区に学校が開校して106年、山村留学生を受け入れ30年となり、これまでに延べ366人の留学生を送り出してきました。

将来にわたって地域から愛され親しまれる木造校舎となることを願うとともに、子供たちが学び舎を中心に、豊かな心と健やかな体、そして生きる力を身につけ、全国各地で活躍することを期待しています。

美深町立 仁宇布小中学校

SGEC プロジェクトCoC全体認証施設

美深の森で育った認証材の伐り出し、建材加工、建築施工まで一連の工程を経て完成した建築プロジェクトによる新校舎。

全国初となる大型木造建物全体のSGEC プロジェクトCoC認証を受けて完成した「美深町立仁宇布小中学校」新校舎の建設にあたり、使用した木材の72%以上が地元美深町に広がる道有林・町有林の森林認証材が使われています。

新校舎は木造平屋建てで、柱や梁にトドマツやカラマツの集成材、壁にはトドマツの羽目板、フローリングにはカラマツを使用した美深町にふさわしい木の温もりに包まれた設計になっています。

永続的な森林資源の活用を可能にするための仕組み「森林認証制度」の根幹は「豊かな森を守り・育みあうこと」それは、教育の現場をはじめ様々な分野において地域社会が共有すべき取り組みでもあります。

■ 木材使用状況(単位:㎡)

種 別	使用量	樹 種	
		カラマツ	トドマツ
認証材			
美深町有林産	108.850		108.850
北海道有林産	99.839	84.964	14.875
その他(合法木材等)	78.569		
計	287.258	84.964	123.725
認証材使用率	72.65%		

〈プロジェクト本部〉

美深町役場 建設水道課

〈施設管理〉

美深町教育委員会

〈プロジェクト施設〉

美深町立仁宇布小中学校

〈協力団体・事業者〉

橋本川島・山崎特定建設工事共同企業体

上川北部森づくり協同組合

谷口木材株式会社

三津橋産業株式会社グループ

下川フォレストファミリー株式会社

MAKOTO建設

株式会社ノムラ



美深町内の認証林で新校舎建設に使用する木材の伐り出し作業。



適切に管理された町内の町有林・道有林で確保した森林認証材の原木。



確保した森林認証材の原木を協定工場で製材に加工。



搬入された製材を柱や梁に使用する集成材に加工。



搬入された製材を構造用のプレート部材に加工。



協定工場で構造用集成材に高耐久金物を取り付け加工。



建設現場に搬入された構造用森林認証材の組み立て。



構造体の柱や梁には歪みにくく強度の高い集成材を使用。



傾斜屋根を支える集成材の梁。



森林認証材トドマツを加工した羽目板の貼り付け作業。



地元の認証材がたくさん使われた開放的な共用ホール。

豊かな森を大切に守りながら永続的な資源活用を可能にする森林認証制度。

森林経営を支援し、森林保護と資源活用を持続可能にする緑の循環型社会を目指します。

森林認証制度は、第三者機関が定める基準で適正に管理された森林の木材や加工品等を認証ラベルで表示管理し、購入を通して森林経営を支援しながら持続可能な森林資源の保護と活用を図る制度で、環境保全・環境負荷の低減が期待される製品や取組みを評価・認証し、産出地域の森林管理をするため木材認証制度とも呼ばれています。認証区分は、森林所有者は森林管理認証(FM認証)、素材生産及び木材加工事業者はCoC認証に分類され、認証材としてブランド化することで製品の差別化や生産・流通の管理ができ品質や信頼性を高めることができます。また、認証材を使用した建築プロジェクト(建造物全体または一部・船舶・展示場等)そのものを認証対象とするプロジェクトCoC認証制度もあります。

